



カンボジア便り

教科書プログラムなどの支援の近況

教科書プログラムと幼稚園スクールバスにより、さまざまな支援の効果がみられるようになってきました。4月時点での、幼稚園への通園状況は、常時通園している子どもの数が28～30人、多いときには35～38人となっています。病気の流行や、祭りの前後などには数が減少するものの、おおむね昨年を上回る数の子どもたちが通園しています。また、成績の向上が見られた小学校への教科書プログラムにおいても、当初想定していなかった嬉しい成果が現れてきています。教科書があることにより、欠席率や退学率が減少しているようです。ルセイサン小学校の場合は、昨年は欠席率が平均して20%程度だったのが、今年は2%程度にまでさがっています。教科書プログラム実施以前は、3人ぐらいで一冊の教科書を共有しており、自宅で勉強することができず宿題もできない子どもが多かったため、子どもたちの成績も悪く、勉強を楽しいと思えない子どもが多かったようです。また、教科書がないため宿題をやれなかったのが先生にわかるのが怖くて、学校に来たがらない子どももいたようです。現在は、すべての子どもが教科書を持っているので、宿題もできますし、わからないところがあれば両親などまわりの人に教えてもらうことができ、多くの子どもたちが勉強や学校に行くことを楽しいと感じるようになりました。

これらの結果を踏まえて、日韓アジア基金としては、①教科書プログラムを通じて支援する学校を拡大していくこと、②生徒数の増えたルセイサン小学校への追加支援の二つの活動を重点的に行おうとしています。

これらを通じて、日韓アジア基金としては、①教科書プログラムを通じて支援する学校を拡大していくこと、②生徒数の増えたルセイサン小学校への追加支援の二つの活動を重点的に行おうとしています。

①に関して、今年度に限らず、今後教科書プログラムを当会の支援の柱とするため、現地のリティさんを通じて、他校の状況を調査するところから開始しています。すでに、ルセイサン周辺にある8校の校長とリティさん及びルセイサンの校長などの間で会議を開き、それらの学校の教科書不足の程度がルセイサン、ワットハー両小学校の支援前の状況と基本的に同じであることを確認しています。一方で、当会としては、今後拡大していく支援について、単に教科書購入の費用を提供していただくだけでなく、現地の人たちにも教科書プログラムを通じて教育の質向上に積極的に関与してもらうため、何らかの形で負担をお願いしたいと考えております。

～目次～	
カンボジアだより	1
教科書プログラムなどの支援の状況	
現地の声	
互いに聴きあうビビンの会	4
文京国際交流フェスタ2010	5
スタッフ紹介	
事務連絡	6



図書室の新しいテーブルで本を読む子どもたち

この点については、教科書購入の資金の一部を現地の人にも負担してもらう、というのがもっとも分かりやすい形であると思われませんが、親たちに費用負担をお願いすることは現実的には非常に難しいということ、また、各学校の予算の状況もまちまちであること、など慎重に進めて行かなければならないようです。現在の状

況では、一部の学校は余った予算の中で費用を負

担することに前向きな意見も見られますが、当会としては、費用負担に限らず、各学校にどのような形で教科書プログラムに前向きに関与してもらえるか、現地から提案してもらうようお願いしています。単に与えるだけの支援から、より自立を促す協働型の支援へと繋げていければと思っています。

②のルセイサン、ワットハーへの追加支援に関しては、ルセイサンに18個のテーブル（1個あたり14ドル）を寄贈致しました。学校に来る子どもの数が増加したことから、新しいクラスと図書室内で使うテーブルが必要となったことに対応したものです。また、教科書に続いて、ノートも不足している状況が分かってきており、今後問題の深刻さの度合いと必要性に応じて支援を検討します。ノートが無いために子どもが教科書をノート代わりにして書き込み、翌年の子どもたちがその教科書を使えないという問題もあるようです。

現地の声

前回のニュースレターでも現地からの感謝の声をお伝えしましたが、状況を正確に把握し、今後の支援活動に活かすため、先生や教育現場に関わる一人ひとりから、定期的に現場の状況や提案事項などを報告してもらうことにしました。以下、各先生方の声です（紙面の関係上、重複する部分をカットしてあります）。

Ms. Rath Maly（ワットハー 3年生教諭）教科書のおかげで、子どもたちは読むのが上手になり、宿題をしっかりとやれるようになった。また、先生に質問する勇気がつき、自信を持つようになった。月次の試験の平均正答率が90%と、昨年比べて格段に向上した。教師としては、子どもたちへの説明がしやすくなり、宿題も出せるようになったので、以前より全般的に状況が改善した。

Ms. Chem Sivun (ワットハー 1年生教諭、元アジア未来学校の先生) 子どもたちは教科書が手元にあるのをとても喜んでいる。しっかりと授業に向けての準備や宿題をしているので、授業に来ることを恐れることなく、学校に来やすくなっており、出席率が向上した。

Mr Heng Rano (ルセイサン 6年生教諭) 子どもたちが授業の前に予習しており、生徒間の差が無くなってきたため、授業がしやすくなった。教師にとって教えやすいということは、教育法が効果的になるということ

で、子どもたちが授業を理解することにもつながる。子どもたちは勉強することが好きになり、試験結果が向上し、欠席率も低下した。途中退学する子どもの割合が減少しており、教科書があることで子どもたちが少なくとも初期教育を終えるまでの確率が高くなることが期待される。教科書を支援して頂けること



は、教えること・学ぶこと双方の質・効用を高めるのに有効で、国としての教育の目的を達成することに貢献している。

幼稚園にも新しいテーブルが来ました

Ms. Khiev Chendaduong (ルセイサン 4年生教諭) 教科書のおかげで子どもたちは文字を読めるようになってきており、図書館の本から知識を得ることもできるようになった。

Ms. Nob Davy (ルセイサン 1年生教諭) 以前は、教師として教材に使う資料探しに苦勞しており、子どもたちも、家で予習することはほとんど無かった。出席率も悪かったので、試験結果も満足のものではなかった。教科書のおかげで、子どもたちが家で予習をしており、勉強に集中してくれるので、教えやすくなり、子どもたちの理解力も格段に向上した。

Ms. Seng Chanroeun (ルセイサン 図書館員) これまで教師は授業に使う本を探すのが難しかったが、今は図書館に全科目の教科書と物語本があるので、授業で必要な時に図書館に借りに来るようになった。これまで図書館の本が不足しており、補充も不十分だったので、図書館に来る子どもはあまり多くなかった。アンロンコンタマイ村の子どもたちも含め、子どもたちが図書館に本を読みに来たり、読み聞かせを聞きに来たりするようになった。結果として、以前より読むのが上手になった。(市井)

ずっと来たいと思っていたビビンの会。既に大学生世代の友人が多く参加していて、かれらと会うたびに「姉さんもビビンの会に遊びに来てよ！絶対に面白いよ！！」と誘われていた。私はそもそも子どもが好きだし、中学頃からボランティアに興味があったこともあって、楽しく韓国の人と話が出来てボランティアにもなるなら、そりゃー石何鳥だい、と前々からとても興味を持っていた。が、公立中学校の教員である私は、どうしても部活や行事が重なってしまうことが多く、今まで参加できずにいつも残念に思っていた。

今回ようやく参加することができた訳なのだが、まず、私が部屋に入って目にしたのは、ホワイトボードに貼られた色紙で作られた輪飾りと、セロテープが取れてしまったのかボードから落ちかけたハートの風船だった。とても素朴な飾り。でも、これだけのものを準備するのに、一体スタッフの皆さんはどれだけの時間を費やされたのだろうか。きっと、自分の時間を惜しげもなく使って、とてもあたたかい気持ちで作ってくださったんだろうなと初参加ながらありがたい気持ちになった。実際に会が始まり、アイスブレイキングあり、歓談ありととても楽しい時間が過ぎた。

後半はグループを変えて他己紹介をする。そのインタビューシートも手作りだ。ここでも私はまたほっこりしてしまう。そして、私が一番楽しみにしていたディスカッションが始まった。各グループで色々なテーマがあり、同じ国民同士でも考え方が違ったり、韓国人が知らない韓国情報を日本人が提供したり。でも、どのグループにも、誰が話しても一生懸命聞こう、違う意見も尊重しようという態度が見られた。これが私の普段の授業であり、今回の参加者が私の生徒であったら、私は授業を止めてでも褒めちぎると思う。この場での参加者の態度は「聞く」ではなく「聴く」だったからだ。この「聴く」は耳で聞くだけではなく、そこに目と心を足す漢字である。音で聞いていても、そこに物事をまっすぐに見つめよう＝理解しようとする心が無くては、誰かの言葉はただの音になってしまう。でも、このビビンの会は違った。スタッフとゲストの間での気持ちのキャッチボールがあり、ゲスト同士も気持ちのキャッチボールができた。私は教師という仕事上、他人を動かすためには、どれだけ準備が大変か良く分かっているつもりであるし、あ、ここはすごく工夫しているなど感心するところも多かった。しかし、何よりもそんなことを参加者のほとんどが気づくことなく、心から楽しい時間を過ごすことができていたのが一番大切なことなのではないかなと思う。私もとても楽しかった。

実は昔、韓国人から「韓国の中に今ある悪い文化は全部日本から来た」と面と向かって言われたり、旅行中に日本語で話していたら韓国語で「日本人が～～」とサラリーマンに凄く不愉快そうな顔で言われたことがある。だから一時韓国・韓国人をどこか怖いと思っていた。だが、韓国人の友達が増えた今、個人を好きになることが出来れば、全体のイメージも良くなるなど思っている。きっとビビンの会は、そんなやさしい関係作りのきっかけになれる会だろう。

最後に、スタッフのみなさん、素敵なお場をずっと作ってくださっていて、どうもありがとうございます。ぜひ、また参加したいと思っています。

2月21日（土）に文京シビックセンターで行われた文京国際交流フェスタ2010。日韓アジア基金は今年で2年目の参加となりましたが、私は今回が初めての参加でした。

この文京国際交流フェスタは、東京都文京区が主催する外国人と日本人の文化を通じた交流の場です。華道・茶道・書道・着物着付けなど、日本の伝統文化を体験できたり、日本と世界の伝統音楽の演奏を聴いたり、情報ブースでは国際交流団体や世界各国について知ることができます。また日本の伝統菓子、ヨーロッパのパンやお菓子などの販売まで行われています。当会は、情報ブースに出展し、カンボジアの教育支援について掲示し、お客様に説明したりしました。

私はイベントリーダーという大役を引き受けたにも関わらず、事前から当日まで迅速な行動がとれず、皆様にはご迷惑を掛けてしまいました。しかし、スタッフの皆のサポートによって、事前の準備もスムーズにでき、本番を迎えることができました。そして当日はボランティアスタッフの方々が当会のスタッフ以上に積極的に、来場なさったお客様へ声をかけていました。来場されたお客様はやはり日本人だけでなく、韓国人や中国人また北欧の方々まで幅広いお客様がお見えになりました。中には日本語がつかない方もいらっしやったので、私たちスタッフが頑張って英語を話す場面も見受けられました。しかし英語版のパンフレットを用意していなかったため、素通りしてしまうお客様があったことはとても残念でした。また、当会のブースが地下にあるということで、客足は体験コーナー等の地上のブースに比べると少なかったですが、募金活動は客足以上の成果をあげることができました。

何よりスタッフ自身も日韓アジア基金として参加しただけではなく、個々に国際交流に参加でき、とても有意義に時間を過ごせたと思えました。

スタッフ紹介

中央大学 法学部政治学科4年 吉原 海（かい）

皆さまはじめまして。昨年12月に行われたビビンの会にボランティアスタッフとして参加したのをきっかけに、日韓アジア基金のスタッフになりました。ビビンの会では、韓国の方々と日本との文化、価値観の違いなど、様々なことについてディスカッションし、互いを知ることの新鮮さと面白さを感じました。また、今年の1月末に行われたニュースレターの発送作業では、早速イベントリーダーを務めさせていただきました。



大学では政治学を専攻し、とくに生涯学習やまちづくりについて学んでいます。大学3年から所属しているゼミでは、各分野の第一線で活躍されているNPOの代表の方々取材し、1万字程度のルポルタージュを執筆する活動をしています。韓国やカンボジアについてはまだまだ知識不足ですが、当会での活動や皆さんとの交流を通じで少しずつ学んでいきたいと思っています。これから、どうぞよろしくお願ひ致します！

次回ビビンの会のお知らせ

次回、第13回ビビンの会は、7月10日(土)14時からアジア文化会館にて開催します。
参加をご希望の方は、このページ下部の「お問い合わせ先」にご連絡下さい。

当会イベントにボランティアスタッフとして参加下さった方(敬称略・順不同)

1月31日 ニュースレター32号 発送作業

油田奈緒子・宮澤篤志・福原佐和子・平田麻里子・高橋 拓巳・辻村亜由子・金慧珍・金效住

2月20日 文京国際交流フェスタ ブース設営・活動説明

高橋拓巳・水野碧・立川充宏・佐藤愛子・原口彩・本宮慎吾・崔春梅

4月17日 第12回ビビンの会・グループリーダー

横田 麻未・小森 新・秋山 卓澄

10年2月3日～10年4月28日に会費・ご寄付を下さった方 敬称略・別枠を除き五十音順

秋元 久美子	王 嶺	片岡 彩子	佐藤 和之	田村 洋平	堀川 泰義	山本トシミ
阿南 系代	大塚 紀子	語ろう会	下村 紀雄	橋本 寿夫	前島 盛一	吉野 早苗
油谷 友加	大坪 玲子	金澤 潤子	高木 修	平塚 千尋	八坂 涼子	
井上 卓也	小川 英	越塚 忠巳	高木 桂子	古川 かおる	柳田 文子	
岩見 豊子	尾崎 格	小林 栄次郎	田中 節子	星 光雄	山根 寛	

ボランティア 野菊の会

ご入会・ご寄付のお願い

活動会員:年会費 5,000円(学生、未成年者 2,000円)

賛助会員:年会費1口5,000円(学生、未成年者 1口2,000円)

法人会員:年会費1口10万円

ご寄付:2,000円以上おいくらでも

<郵便振替口座>

口座番号 00180-2-25153

口座名 日韓アジア基金

・活動会員:活動に積極的にご参加頂ける方。総会での議決権がございます。

・賛助会員:定期的にご支援頂ける方。

ご支援下さった方には「日韓アジア基金ニュースレター」をお届けします。

<お問い合わせ先> (日本語でお願いします)

〒113-0021 東京都文京区本駒込 2-12-13 アジア文化会館(ABK)内

Tel:090-4456-2942(庶務・会計担当 大澤) FAX:03-3946-7599(ABK)

E-メール: jkaf@ml.infoseek.co.jp

HP: 検索サイトで「日韓アジア基金」で検索なさって下さい。